



## 利用者の全体像

橋本隆さんは、44歳で糖尿病と診断された。食事療法の必要性を理解しているものの美味しいものを食べるのが大好きで、食事療法を継続するのが難しく、55歳で高血圧、脂質異常も指摘された。65歳から経口血糖降下薬に加えてインスリン療法が開始された。68歳で脳梗塞を発症し（1回目入院）、72歳で狭心症のため経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を受け（2回目入院）、75歳で小脳梗塞を発症、治療中に右中大脳動脈の脳梗塞を起こした（3回目入院）。現在、嚥下障害、左半身麻痺、構音障害、小脳失調の後遺症が見られ、在宅ケア・サービスを利用して日常生活を送っている。

## 優先順位決定の根拠

長期に高血糖にさらされた結果、細小血管がダメージを受け、血管の狭窄や閉塞が起こった。生活習慣の改善がなされず、高血圧症、脂質異常症も併発し、糖尿病の合併症である大血管障害が繰り返された結果、現在は小脳梗塞と右中大脳動脈の梗塞の後遺症として嚥下障害、左半身麻痺、ふらつきが見られている。日常生活動作全般に見守りや介助が必要となっていることから、「**1. 多職種や妻からの支援を受けて、セルフケア行動を取ることができる**」を優先順位の1番目とした。

1回目の入院後は通院と自主的なリハビリテーションにより、身体機能は妻と旅行に出かけられるまでに回復した。今回の脳血管疾患の再発により身体機能が低下したため、転倒や廃用症候群の予防、誤嚥性肺炎・脱水予防が重要となる。要介護3であることから、妻の介護負担が少なくない状況にある。身体機能の維持・回復が図られることで妻の介護負担が軽減され、安定した在宅生活につながることから、「**2. 身体機能の維持、転倒予防のため機能訓練に取り組み、妻の介護負担を軽減できる**」を優先順位の2番目とした。

入院中からの食事療法、リハビリテーション、内服治療により、現時点では血糖を含む血液データや血圧はほぼ安定していると推測される。自宅での生活が軌道に乗ってくると、これまでの生活習慣に戻ってしまったり、妻の介護負担が大きくなると食事療法のサポートが難しく、高血糖に傾く可能性が考えられる。また脳血管疾患や心疾患等の再発の恐れもあることから、「**3. 内服と食事療法を継続し、脳梗塞や狭心症の再発を防ぐことができる**」を優先順位の3番目とした。

## 長期目標

身体機能の低下を防ぎ、脳血管疾患の再発や糖尿病の進行を予防し、介護負担の軽減を図って介護者とともに安定した在宅生活を続けることができる。

## 短期目標

1. 多職種や妻からの支援を受けて、セルフケア行動を取ることができる。
2. 身体機能の維持、転倒予防のため機能訓練に取り組み、妻の介護負担を軽減できる。
3. 内服と食事療法を継続し、脳梗塞や狭心症の再発を防ぐことができる。